

# 群れの絆が固いサバンナの凄腕ハンター



**リカオン** 食肉目イヌ科リカオン属 *Lycaon pictus*

アフリカ中部から南部に分布。絶滅危惧種。  
体長は 80 ~ 110cm。特徴的な丸みを帯びた大きな耳は、  
体温を調節する役割があると考えられている。持久力を誇る  
ハンターだけに長い四肢を持つが、他のイヌ科と違い指は 4 本。

©PHOTO / izumi yamazaki

## 弱っている仲間を見捨てず助ける

今年 1 月によこはま動物園ズーラシア（神奈川県横浜市）でリカオンの赤ちゃんが誕生しました。4 頭の赤ちゃんは元気にすくすくと育ち、3 月に来園者の投票によって愛称が決まりました。

リカオンは、アフリカのサバンナや草原に生息している犬の仲間です。野生のリカオンは「パック」と呼ばれる群れを作り、お互いに助け合って暮らしています。群れは、雌雄のペアを中心に、10 頭前後で構成されます（最終的に 20 ~ 40 頭の群れになるという説もあります）。雌雄の差があまりなく、体の大きさも同じくらいで、雌がパックのリーダーになることもあります。狩りも子育ても、共同で行います。男女平等なんですね。

群れでは食物を共有し、体が弱っていたり、病気になった仲間も見捨てずに支えてあげます。

また、社会構造が人間と似ていて、他の肉食動物の群れとは違い、子どもが先にごはんを食べます。

## 時速 60km で 30 分、走り続ける

仲間の絆が強いリカオンは、チームワークで狩りを行い、成功率は 80% とも言われています。その狩りの手法は見事としか言いようがありません。ターゲットを決めたら、先導役が獲物を誘導し、攻撃役が少しずつ獲物にダメージを与えていきます。そして獲物が弱ってきたら、最後にトドメを刺すのです。役割分担をし、背後と左右から徹底的に追い詰めていくこの方法は、強い結束力があるからこそできる手法ですね。

その結束力に加え、リカオンは時速 60km で 30 分間、走り続けていられる並々ならぬ持久力も持ち合わせています。また、狩りをする前に、群れのメンバー同士で体をなめ合って士気を高めるそうです。狩りの成功率が高いのもうなずけます。

リカオンのラテン語名の意味は、「色を塗ったオオカミ」。大半は茶や白、黒、黄色などのまだら模様ですが一色の個体もいます。

リカオンが飼育されているのは、日本では冒頭で紹介したよこはま動物園ズーラシアと富士サファリパーク（静岡県裾野市）の 2 か所のみです。

4 月に入り、おでかけが楽しくなる季節です。リカオンに会いに、遊びに行ってみてはいかがでしょうか。